

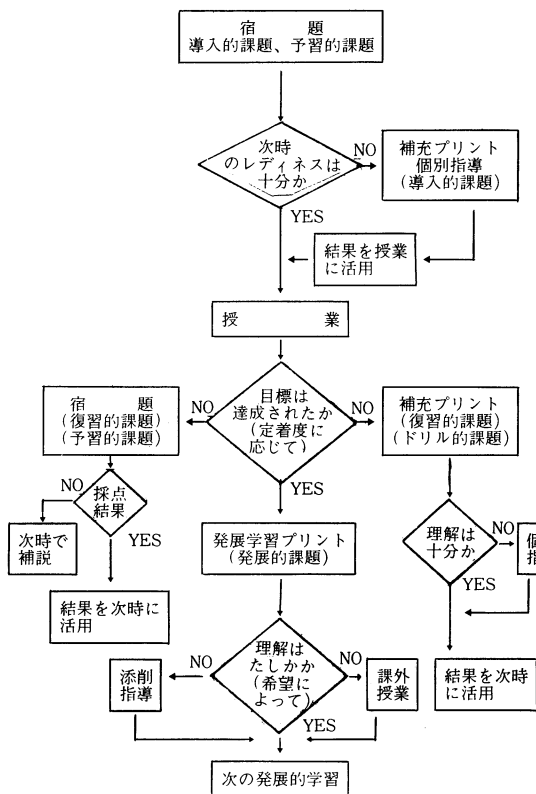
個別化を図った学習指導

田村高等学校 数学科

一、はじめに

高校進学率の上昇、学区や学級数の変化に伴い、生徒の実態に大きな変容がみられるようになったことを契機によくわかる授業を展開するため、学習の到達目標の設定と授業のあり方、一人一人の生徒の活躍場面の与え方、意欲的な学習の促進と学習の習慣化等について、教師全員でくふうし、本校生に最も適した指導法を見いだそうと努力してきた。

二、授業と課題学習の関連(流れ図1)



- 1 定着度を考慮した学習プリントの個別化
 - (1) 補充プリント学習→低学力者に対し、個別指導の徹底を図る。
 - (2) 宿題プリント学習→家庭学習を充実させ、その習慣化を図る。
 - (3) 発展プリント学習→高学力者に対し、発展的学習の促進を図る。
 - (4) 復習的
 - (5) 発展的
- 2 課題のねらいの明確化とその分類
- 3 課題プリントとその指導および処

三、授業の構造(流れ図2)

- 授業は、いつせい指導により進めるが、生徒が主体的に取り組む問題意識や学習意欲を高めるため、一人一人の学習活動の位置づけを明確にしておく。
- 1 前時の反省
 - 宿題のプリントの処理などをおして、前時の反省をする。一人一人の理解度、定着度を確認し、次時の授業に対するレディネスを把握する。
 - 2 指導案の作成
 - (1) 指導内容の精選
 - (2) 補充プリント
 - (3) 宿題プリント
 - (4) 発問内容と発問対象生徒の決定
 - (5) ドリルの演習問題の決定
 - (6) 板書生徒の決定
 - (7) 生徒の活動の場の設定
- また、導入的、ドリルの、復習的なプリントをそれぞれ指導内容に合わせて作成しておく。

- 学習予定を記入した個人カルテ表を作っておく。数学科四人の中から、毎回二～三人が指導に当たり、ふじゅうぶんな理解を確実にするとともに、自分勝手な計算による誤りに気がつき、正しい方法が理解できるまで説明をする。一次で合格できず、二次、三次と繰り返し返すことにより合格するものもある。残ったものは、翌日の昼休みや放課後を利用して、結局、全員が全課程を修了した。
 - (四) 電算機(OKITAC-4300)により、入学時から定期考査の成績を偏差値(ただし、標準偏差が十五)に換算して、追跡調査し、数学科ばかりでなく、HRTなどの教育相談にも利用している。
 - (五) 本校の九割の生徒は就職希望なので、入学時より進路意識を強く持たせながら学習を進めることにより、その効果をあげることができ。現一年でも、補講を受けたものの中から、こうした指導により大幅な学習成績の伸びを示しているものがある。
- また、定期考査のスケログラムを作ることで、学習にむらのある生徒が見つかつたり、正答率が期待と食い違つたり、クラスによって正答率が異なる問題が見つかるなど、教材研究、学習指導にたいへん参考になっている。

授業と課題学習の関連(流れ図1)